



2026年4月20日発行

公益財団法人 仙台 YMCA
〒980-0822
仙台市青葉区立町 9-7
Tel 022-222-7533
Fax 022-222-2952
www.sendai-ymca.org
発行人 / 加藤雄一
編集人 / 松島見子

みつかる。つながる。よくなっていく。

No.377.2026

仙台YMCA

仙台青年

SENDAI YMCA NEWS



2026年度スタート

つなぐ想い、拓く未来 — Vision 2030のさらなる深化へ

仙台YMCA会長 菅野 健



新年度を迎え、会員の皆様、ボランティア、そしてYMCA運動にご理解とご支援をいただき、御挨拶を申し上げます。

2025年度に仙台YMCAは創立120周年という大きな節目を迎えました。東日本大震災からの歩みの中で育んできた「人とのつながり」を再確認し、多くの皆様と共にこれまでの歴史を振り返り、次なる125周年、そしてその先の未来を展望する1年となりました。この長い年月を通じて得た地域の皆様との信頼関係こそが、私たちの活動の確かな基盤であることを改めて実感しております。2026年度は、仙台YMCAの将来計画「Vision 2030」の第1期（2024～2026年度）を締めくくると重要な1年です。世界中のYMCAが共有するこのビジョンは、若者や地域社会のニーズが急速に変化する現代において、私たちが戦略的に行動し、コミュニティを癒し、再構築していくための羅針盤です。

私たちは本年度、特に「こども」「コミュニティ」「ボランティア」という3つの重点テーマに基づき、以下の活動を加速させてまいります。

第一に、全てのこどもの豊かな成長を支え、地域全体で子育てを支える環境を充実させます。

第二に、多機能化する拠点でのプログラム開発を通じて、世代や国籍を超えた多文化共生の場を創出します。

そして第三に、次代を担うユースの力を信じ、彼らがその能力を十分に発揮できるよう、エンパワーメントの機会とサポート体制をさらに強固なものにします。

また、2025年度社会福祉法人で取得したYMCAめぐみのもり「からふる」は、YMCAのこども園や野外プログラムで自然と人との共存を学ぶ貴重な「場」となっており、さらに多様なプログラムを展開していく準備を進めていきます。

「したい何かがみつかり、誰かとつながる。私がよくない、かけがえない場所」。このブランディングメッセージを体現し、互いの個性を認め合い高め合う「ポジティブネット」のある社会を目指し、職員・ボランティア一丸となって邁進してまいります。本年度も、皆様の変わらぬ御支援と御参画を心よりお願い申し上げます。

仙台YMCA副会長 工藤 正剛



新緑の候、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より当法人の活動に対し、多大なるご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当法人は現在、西中田・南大野田・加茂・長町の4つの園にて、400名近い園児をお預かりしております。キリスト教精神に基づき、地域と共に歩む「こども園」として、本年度も新たな一歩を踏み出しました。

この春、当法人を長年にわたり牽引してこられた長町光子氏が3月末をもって定年退職を迎えられました。お二人のこれまでの献身的なお働きと、子どもたちへ注がれた深い愛情に心より感謝申し上げます。幸いにも、4月以降もお二人は新たな役割において引き続き法人を支えてくださることとなりました。この人事に伴い、長町こども園園長（統括園長兼務）に半澤明美を、南大野田こども園園長に主幹保育教諭であった山田彩子を任命いたしました。次代を担うリーダーたちによる新体制のもと、より質の高い保育・教育の実践に努めてまいります。

当法人が掲げる「中長期事業経営基本方針（2021年～2030年）」は、前期5か年計画を終え、大きな節目を迎えました。全4施設の「こども園」への移行、および野外保育場の開設という成果を糧に、2026年度からは「後期5か年計画」へと移行いたします。後期計画においては、職員が誇りを持って働き続けられるよう、処遇の改善や働き方の再検証を重点的に進めてまいります。職員の心の充実、子どもたちへの豊かな関わりへと直結するものと確信しております。

また、野外保育場「YMCAめぐみのもりからふる」は、現在3期計画（2024年～2028年）の最終期にあります。今年度は昨秋発足した研究チームの活動を本格化させ、他法人との連携も視野に入れながら、自然の中で体験が子ども達の発達にどのような好影響を与えるか深く探求してまいります。時代が変化しても、私たちの願いは一つです。子どもたちが心身ともに健やかに、神様に人に愛されて育つこと。そのためにも職員一同学びを止めず、研鑽を積んでまいります。皆様におかれましては、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

仙台YMCAの使命

私たち仙台YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、青少年の全人的成長を願い、このわがを東北の地に広げるための活動を行います。

共に生きる社会をめざします。

私たちは、すべての人が喜びと痛みを分かち合う、豊かな愛と希望に満ちた社会の実現に努めます。

喜びのある生き方をすすめます。

私たちは、すべての人が、生涯にわたる学びと交わりをおし、共に成長できる生き方をすすめます。

世界平和の実現に努めます。

私たちは、歴史をふりかえり、一人ひとりの人権とすべてのいのちが尊ばれる世界の実現に努めます。

地球環境を大切にします。

私たちは、地球環境を守り、自然と人との共存をめざします。

ボランティアの働きを地域社会に広げます。

私たちは、人々とのかかわりを豊かに育み、隣人に仕えあう喜びの輪を広げます。

子どもたちの生きる力を育てます。

私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちが自発性に富み、自立心豊かでたくましい人間に育つよう支援します。

仙台YMCA 常議員会議長 加藤 研



桜の季節となり、いよいよ本格的に新年度が始まりました。121年前、現在のSS30付近(宮城学院跡地)にあったメソジスト教会の土地と建物を購入し仙台基督教青年会はスタートしました。設立当初は英語夜学校と宗教部設置が主要事業でした。以降2度の世界大戦や幾多の戦争禍を乗り越え、現在があります。

今は幼稚園教育・健康教育・専門学校教育・こども園運営・こどもセンター運営・児童館運営と老若男女の健康支援から、青年(特に最近)は留学生受入が顕著や児童・幼児への教育・支援の活動に200名を超えるスタッフが日々励んでいます。4月の朝は「嫌だ〜お家に帰る!」の声が園庭に響きます。保護者の方の困り顔、笑顔で園児を迎える先生、そして涙を一杯ためて泣き叫ぶ園児。それも5月の声を聴くとピタリと止まります。こどもたちは大きな声で「おはよう!」と園庭に駆け込んできます。新しい環境に溶け込んだこどもたちの姿の、小さいけど大きな成長に自然と笑みがこぼれます。

私は半世紀、YMCAと共に歩んできました。年齢によって立ち位置は変わりました。ある時は園児の保護者として、またある時は小学生のプログラム参加者の親として。そして今は孫を預ける好々爺の心持でYMCAと共に人生を歩んできました。「人生に寄り添う」そんなYMCAが大好きです。

常議員は仙台YMCAの「意思決定と承認そしてその運営に携わる」役職です。たまたま私は現在のお役に就いていますが、維持会員であればどなたでもこの役割を担うことができます。

「青少年の心・身・精神のバランスの取れた成長」と「年齢・性別・国籍・障がいの有無に関わらず認めあえる社会の構築」を目指す仙台YMCAに、更なるご支援を賜うことを切望しております。末筆になりましたが、皆様の「健康と」多幸を心よりお祈り申し上げます。

2026年度の歩みが始まりました。新年度を迎えるにあたり、仙台YMCAの会員の皆様、プログラムに参加の皆様、そして活動を支えてくださるすべての皆様に心より感謝申し上げます。今年度、私たちは年間聖句として次の箇所を掲げました。

「子どもたちを、わたしのところに来させなさい。」
(マルコによる福音書 10章14節)

先日、「ヒューコミ会」に参加しました。仙台YMCA国際ホテル専門学校ヒューマンコミュニケーション科の卒業生の会です。この学科は6年前に廃科となつていますが、現在も毎年2回、カオケやボウリング、小旅行などのプログラムを行っており、27歳から35歳までの方々が参加しています。この卒業生たちは、日常生活で人のやり取りにサポートが必要な方々ですが、YMCAでは一人ひとりの持つ個性を大切に受け入れてもらい、社会へと羽ばたいていきました。友だちを作ったり家族以外と余暇を過ごす機会が少ない彼らは、YMCAの活動を大変楽しみにしています。自分で稼いだお金で参加し、いつも全員が楽しんでくれています。

この聖書の箇所では、弟子たちは忙しく立ち働くイエスを気遣い、近づこうとする子どもたちを「邪魔な存在」として遠ざけようとした。しかし、イエスはそれを憤り、「子どもたちを、わたしのところに来させなさい。妨げてはならないとおっしゃいました。この言葉には、当時の社会で「力のない者」「取るに足らない者」とされていた子どもたちを、神の国の主役として最優先に受け入れるという、イエスの強い意志が込められています。私たちは、このイエスの愛と奉仕の生き方をYMCAの活動の真ん中に置きたいと願っています。私たちの願いは、仙台YMCAが子どもたちにとっての「居場所」であり続けることです。「来させなさい」という言葉は、強制ではなく、いつでも開かれている場所であることを意味しま

仙台YMCA 総主事 加藤 雄一



す。子どもたちが自らの意思で、重い荷物を下ろしに來られるような、ほっとできるコミュニケーションを築いてまいります。

また、この聖句にはもう一つの願いを込めています。

それは、「子どもたちやユースを「変革の主体」として信頼することです。子どもたちは、大人にはない独自の視点や、社会をより良くしたいという純粋な願いを抱いています。YMCAは、若者たちが自分の思いを発信し、実際にアクションを起こせる場でありたいと考えています。「自分の声が届いた」「自分の行動で誰かが笑顔になった」という成功体験こそが、彼らの自己肯定感を育み、未来を切り拓く力になります。私たちは、彼らがYMCAという舞台で十分に活躍できるように、伴走者として支えてまいります。2026年度、仙台YMCAはこれまで以上に「子どもとユース」の声に耳を傾ける団体でありたいと願っています。

「子どもたちを、わたしのところに来させなさい。」この主の招きに応え、誰もが「自分は愛されている」「ここにいいんだ」と実感できる社会を目指して、皆様と共に歩みを進めていければ幸いです。今年度も、皆様の温かいご支援とご祈禱を心よりお願い申し上げます。



2026年度入職式・辞令交付式



4月1日(水)10時から2026年度仙台YMCA入職式・辞令交付式が立町会館にて行われました。礼拝では、仙台富沢教会の阿部頌栄牧師より、『キリストと共にある誇り』と題して奨励をいただき、私たち仙台YMCA職員としての使命を聖書の御言葉を通してお伝え頂きました。続いて、異動による辞令および今年度から採用された新入職員に各法人の理事長より辞令が交付されました。その後、新入職員代表として学校教育事業部に配属になる加藤鈴菜さんから力強い決意表明がなされました。また、先輩職員を代表して西中田こども園の関川美紀さんから、温かくそして思いのこもった迎えるの言葉をいただきました。今年度から入職式を4月1日に変更して開催しましたが、年度始めの新しい子どもたちの受け入れなどで、辞令の交付を受けることができなかった職員の方が多数いらっしゃいました。次年度は少しでも多くの方に辞令を交付できるように工夫したいと考えております。今年度も何卒よろしく願いいたします。(報告/小幡 忠弘)

2026年3月11日14時30分から、石巻栄光教会礼拝堂に於いて、「東日本大震災追悼礼拝」と「感謝のとき」が開催されました。参加者は会場参加者が32名、オンライン参加者が65名と、100名近い方が参加してくださいました。

前奏、招きのことば、讃美歌（ウクライナ民謡による「キリエ・エレイソン（主よあわれみたまえ）」）、祈り、そして讃美歌を再度賛美し、14時46分のサイレンに繋がる形でした。14時46分のサイレンと共にそれぞれが思いを馳せ、黙禱しました。

黙禱後は関川祐一郎牧師による聖書朗読と「しかし、勇気をだしなさい」という題目で説教をいただきました。15年という節目であるが、「神様は、そこにある土地と命を守ってくださる。」という言葉で、まだ不安の中にいる方たちがいる一方で、震災が忘れ去られそうな現実、決してそうしないようにする大切さを語られました。また、それを伝えるために6月に石巻で開催するワイズメンズ東日本区大会の重要性についても言及されました。

礼拝後は、「感謝のとき」が開催され、初めに4ワイズメンズ連絡会議代表の菅野健氏から挨拶がありました。挨拶の中で、「私たちの責任は“東日本大震災の被害をもっと小さくする手段はなかったのか、それを十分に反省し、それを次の世代に正しく伝えること”だと思います。」と力強く話されました。また、ワイズメンズクラブ国際協会東日本区理事の山下真氏と仙台YMCA総主事の加藤雄一氏より挨拶があり、山下氏からは、「追悼式と同日にワイズの国際協会会議があり、その場で東日本大震災にいただいた支援金のお礼をしました。」との報告がありました。

加藤総主事は、15年の節目にあたり、ワイズの石巻大会に間に合うように東日本大震災15年記念誌を編纂中である旨の報告があり、一部内容を読んで「この大変な状況を何とかしなければいけないという、お一人お一人の切実な思いを力強く感じた。皆様が書いている記憶と言葉が一つの形となって集められていくことに私自身忘れてはならない瞬間の宝物を一つ一つ手渡していただいていると感じ、完成をととても楽しみにしている。」と話されました。そして、「支援という一方通行のものではなくて、互いに弱さを認め合って重荷を分かち合う中で、私たちはお互いが一人ではないということを感じていると思っている。私はそこに寄り添う・共にいる姿を感じさせていただいている。15年という年月は平坦ではなかったが、それでも重荷を互いに担い合うことを止めずに歩み続けてきたからこそ、希望に繋がるしるしを見出してきたと感じ、隣人の重荷を担う小さな優しさが暗さの中でも光になっているということを感じておりました。寄り添ってくれたお一人お一人に心から感謝申し上げます。」と締めくくりました。

約1時間という短い時間での追悼礼拝と感謝のときでしたが、こういう小さな思いの積み重ねが東日本大震災を風化させない一歩になっていくのだということを確認するとともに、YMCAだからこそできる他者に寄り添った活動を継続していくことの意義を強く感じたひとときとなりました。（報告：尾木 善宣）



YMCA と私

健康教育事業部

YMCA ジュニアクラブ 元メンバー保護者 岩根敦さん

今回、機関誌に寄稿する機会を頂戴し心から感謝いたします。「YMCAと私」に思いを寄せた時、まもなく半世紀に近い自身の半生はYMCAと共にあったのだと気付かされ、その影響の大きさとその長さに驚きました。

2003年、24歳で建築設計事務所に就職し、人生初の仕事は加茂保育園（現・加茂こども園）の設計でした。現場監理で「実際に働く方の意見を聞きたい」とお願いし、現場に来てくれたのが現在の妻でした。（仕事以外でお会いしたのは竣工引渡し後です。妻の名誉のために添えておきます。）

2人の子どもたちはサッカーで、それぞれ道は違いますが、レギュラークラス・ジュニア・ジュニアコースとあわせて9年間お世話になりました。リーダーの寛容なお心によって「お父さんリーダー」として迎えていただき、クラス全員の子どもたちの成長を見守りながら、大人としてどう関わるかを考える貴重な経験を得ました。サッカー大会で一喜一憂し、努力の大切さや悔しさに向き合う姿から、私自身も成長させてもらいました。サッカーでの関わりはひと区切りですが、「キャラクター・ディベロップメント」を胸に、これからも活動に参加させてもらいたいと考えています。手はじめにYMCAバザーにて、「今年もホタテを焼きたいな」と思う今日この頃です。これまでに深く感謝するとともに、引き続きどうぞよろしく願いいたします。



維持会費（2月16日～4月15日）

皆様のお支えに、心より感謝申し上げます

◆一般会員

維持会員A 坂本 育子、布施 直之、太田嘉嗣
安田 匡志、伊藤 信弘、岡安 潤一
西田 猛和、鏡 慶一、千葉 睦雄 ※敬称略



絵：伊勢文夫さん

一般会員・サポート会員を 随時募集中です

ぜひ会員として、
仙台YMCAの活動をお支えください
お問い合わせ：本部事務局

TEL:022-222-7533
FAX:022-222-2952

連載

加藤 総主事の

『みつかる。つながる。よくなっていく。』

第26回

「子どもたちを、わたしのところに来させなさい。」



2024年度(令和6年度)の調査結果によると、日本の小中学校における不登校の児童生徒数は35万3970人で過去最多を更新しました。全児童生徒の約3.9%に相当し、学校に居づらさを感じる子どもが増加傾向にあります。

毎朝、布団の中で時計を見ながら動けない子。玄関で靴を履けずに座り込んでいる子。その隣で、どう声をかけたらいいかわからず、ただそばにいるしかない親。35万の子どもたちとその親の日々を想像するとつらくなります。

いじめも、76万件を超えました。これは「認知された」件数で、気づかれぬまま、誰にも言えないまま、一人でそっと抱えている子もいるはず。助けを求める声が小さければ小さいほど、届きにくくなります。声にならない痛みが、日常のどこかに静かに沈んでいるわけです。そのことを、忘れずにいたいと思います。

イエスのもとに子どもたちが連れてこられたとき、弟子たちは邪魔そうに遠ざけようとしていました。忙しい先生のそばに、子どもなど連れてくるものではない、と思ったのかもしれません。しかしイエスは、そんな弟子たちを見て憤り、言いました。「来させなさい」と。何かができる子でなくていい。「こうなったら来てよい」ではなく、「今のままで来てよい」という呼びかけです。

今年の年間聖句にこの言葉を選んだのは、仙台YMCAがそういう場所でありたいからです。震災から15年が経ち、困難を抱える方々の姿は日常の中で見えにくくなっています。時間が経つほど、声を上げることが難しくなる。「もうそんな話は終わったこと」と思われるのが怖くて、言えなくなってしまう人もいます。でも痛みは、年月とともに消えるわけではありません。だからこそ、「来てよい」と言い続けることが大切だと思うのです。

仙台YMCAは「みつかる・つながる・よくなっていく」という言葉を大切にしています。その入口は、まず「来られる」ことだと思うのです。来られなければ、何もみつからない。つながりも生まれません。よくなっていく道も、ここから始まる。だから私たちは、「来てよい」と言える場所であることを、いちばん大切にしたいと思っています。うまく言葉にできなくていい。ただそばに居ることが、誰かの支えになることもある。来た人が「来てよかった」とひとこと思えるような場所を、一つひとつ積み上げていきたいのです。

布団の中で動けない子の朝が、少しだけ軽くなるように。玄関で靴を履けずにいる子の隣に、黙って座っていられた大人が一人でも増えるように。そんな願いをもって、今年も歩いていきたいと思っています。

column

仙台YMCA バザー



仙台ワイズメンズクラブ 中川典幸さん

このたび、仙台YMCAバザーの実行委員長を務めることになりました仙台ワイズメンズクラブの中川と申します。

近年は世界情勢も大きく変化し、今年はイランで戦争が勃発して世界的に原油調達が難しくなり経済的にも混乱する可能性が出てきていますが、このような状況でも地域との交流や支え合いの精神を継続することが大切だと考えております。

仙台YMCAバザーの収益金は青少年育成支援、子ども支援基金、障がい児支援など社会貢献事業に活用されており、皆様のご支援が多くの方々に笑顔や希望をもたらしていると感じています。

バザーを開催するには準備から運営まで職員をはじめワイズメンズやボランティア、学生や留学生、地域の皆様の協力と支援がなければ実行することが難しいと感じていますので、皆様のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

INFORMATION

仙台YMCAバザー開催!! 2026年6月14日(日) 10:00~ @ 仙台YMCA(立町会館)

今年もたくさんの方に足を運んで頂ければと思います! また、仙台YMCAバザーは、毎年皆さまのたくさんのご厚意により成り立っております。今年も引き続き、ご寄贈いただける物品をお持ちの方は是非ご協力のほどよろしくお願いいたします!



Advertisement for the 29th Tohoku Region Conference (2026.6.6) with a ship illustration and event details.



第29回東日本区大会 石巻大会HP



2026.5.23 施設見学ツアー

Advertisement for a facility tour (2026.5.23) with a bus illustration and event details.